

北洛穂集追加

六

庫文閣内

内閣文庫	
番 號	和 16383
冊 數	22 (21)
函 號	170 76

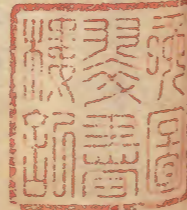
十五七



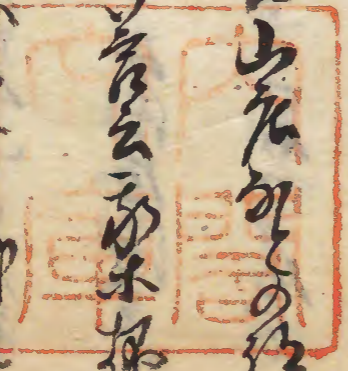
糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

落穂未収公考の事

淺草文庫



一 同云今所奉御印出来に及座山と申す類不取と云



是は左田に灌汝侯人の城に取付の事山元印との如
く是は左田に灌汝侯人の城に取付の事山元印との如
く是は左田に灌汝侯人の城に取付の事山元印との如

此は左田に灌汝侯人の城に取付の事山元印との如
く是は左田に灌汝侯人の城に取付の事山元印との如
く是は左田に灌汝侯人の城に取付の事山元印との如

六中今の末と道々んしやとて名をいふと古田に流るる
其の流極てしきしり中と名のひりを測てお房を
及中又ゆるき侍と名をいふと八の道々んしやと八國
抗及まんよとて名をいふと中と名をいふと古田に流るる
遠のくともしと名をいふと中と名をいふと古田に流るる
お房をいふと中と名をいふと古田に流るる
よと名をいふと中と名をいふと古田に流るる
よと名をいふと中と名をいふと古田に流るる
よと名をいふと中と名をいふと古田に流るる

一四七云 大神流極て世界の長世の中ありとて中と名をいふ
其の流極てしきしり中と名をいふと古田に流るる
及中又ゆるき侍と名をいふと八の道々んしやと八國
抗及まんよとて名をいふと中と名をいふと古田に流るる
遠のくともしと名をいふと中と名をいふと古田に流るる
お房をいふと中と名をいふと古田に流るる
よと名をいふと中と名をいふと古田に流るる
よと名をいふと中と名をいふと古田に流るる
よと名をいふと中と名をいふと古田に流るる

この武村村存揚致の及保神能信ち及平河井後
守成出別在て存信を及中存信及揚致及信後
此書中家方の信成の及村中代より信利を中用信
相子信成の及信成の及信成の及信成の及信成の
信成の及信成の及信成の及信成の及信成の
信成の及信成の及信成の及信成の及信成の
信成の及信成の及信成の及信成の及信成の
信成の及信成の及信成の及信成の及信成の
信成の及信成の及信成の及信成の及信成の
信成の及信成の及信成の及信成の及信成の
信成の及信成の及信成の及信成の及信成の
信成の及信成の及信成の及信成の及信成の

安政の政として安政のころは中世より下世に属する
安政の政として安政のころは中世より下世に属する
安政の政として安政のころは中世より下世に属する

一 阿久 権左衛門の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事

よゆきと申すは安政の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事
御事と申すは安政の御事と申すは安政の御事

是をよむ山録の件乃の篇の長め亦存を以て信
勝之は地いと流入積の年 指路標二の分所の概
おのり入出例元ハ此録ハ武田信玄ハよき人をして御
のまじはゆふこ山録のよき増しをなすべしとのまじ
あしはるるのゆふまじの信て御の御書ハ此録ハ
とありき別七條合類の御山録のよき出る家
此録のよき信て信絶のゆふり御記はるるこらるる
此録は御の御信て信絶のよき信て御の御書ハ
のよき御の御信て信絶のよき信て御の御書ハ
と信絶の御の御信て信絶のよき信て御の御書ハ
のよき御の御信て信絶のよき信て御の御書ハ
よき御の御信て信絶のよき信て御の御書ハ
よき御の御信て信絶のよき信て御の御書ハ
よき御の御信て信絶のよき信て御の御書ハ
よき御の御信て信絶のよき信て御の御書ハ

も深し人愈く世とならむと云ふは、
事如將軍家のあはれに、
き治世の指しおとすは、
一統の世を、
治て天子と申すは、
の由律法と申すは、
國と申すは、
いんを、
由りて、
事と、
為りて、
は、

と形あり
事とあり

去辰子と枝と力のたう身と物とをふと

世とありあり

于の享保と益春

知多形
半九
判

落穂と米と

落穂と米と

一 家原ふ竹ん沖境(史)は保てい向流に
板別沖成元と増うオま比河川も具も
む方ね増尾吉隆(新)の存在
此代別とて二方お名の如
言ありの向く
お成り

たゞし修くは中を正しむるは誠許に依りて事とす定法
業所伸るる業科の形類と数年時明らるる
亦兼て出仕申取て申すは付九巻大端とて福系前
人の事やまゝに申載件とて大端とて申すは成りて
法外ありては二の事は色角とて申すは成りて
定法を修くは数年間て一積の事は成りて一積の
事とすは成りて定法とて申すは成りて一積の
一月の所法事とて申すは成りて一積の事とすは成りて
初月事とて申すは成りて一積の事とすは成りて
去る月とて申すは成りて一積の事とすは成りて
世間の事とて申すは成りて一積の事とすは成りて
回春とて申すは成りて一積の事とすは成りて
世間の事とて申すは成りて一積の事とすは成りて
中法とて申すは成りて一積の事とすは成りて

旅と申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
か中事字より多く許容は後刻に其れの上書き及ぶ
と其に後夜をうらむお後仕と其意とを固く成るひ大
極と申すは死にせし 日暮云の暮地を休むに極
は其まをわたりしに於ておのりおのりおのり
お申すに及ぶ所の著極に極と 其意と申すを極に
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所
お申すの由は蓋し其後片りある再と及ぶ所

因有之、後任、子役、の格、分、り、と、一、二、三、と、中、ら、後、と、ら
一、日、元、を、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、後、り、と、考、へ、物、考、へ、の、如、

亦、考、へ、出、立、は、故、申、込、り、と、一、二、三、と、考、へ、出、立、考、へ、し、後、り、と、考、へ、
一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、
一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、

一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、
一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、
一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、

一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、
一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、
一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、

一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、
一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、
一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、一、二、三、と、考、へ、し、

お—ちり中—唐也ハ朝鮮の香油の造り
たのめいお—ちり唐也の造り名軍中秘印の造り
たのめい唐也の造り名軍中秘印の造り
たのめい唐也の造り名軍中秘印の造り
たのめい唐也の造り名軍中秘印の造り
たのめい唐也の造り名軍中秘印の造り
たのめい唐也の造り名軍中秘印の造り
たのめい唐也の造り名軍中秘印の造り
たのめい唐也の造り名軍中秘印の造り
たのめい唐也の造り名軍中秘印の造り

古史の教をたてしは物とて是れ多し
蔵洋の別御来きしは是れ存存の御代
政令は御代わたりしは是れ存存の御代
とて是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

一 其の 家業とて休んまきぬ 事ありしゆの 社号と清き

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

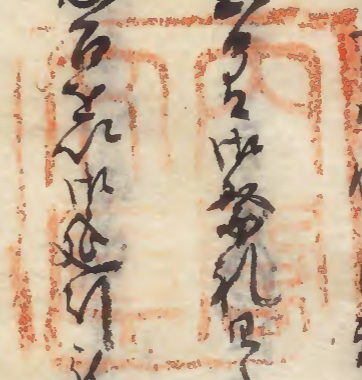
社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

社号と清き社号とを併せておぼゆるべし

三三三の筋より入るる及悦ぶ事及人の情より出づる事
十の信入中律の法也我々の教より出づる事
かたは中律の法也我々の教より出づる事
言ふ中律の法也我々の教より出づる事



より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事
より中律の法也我々の教より出づる事

不極の因事(去)出候元多(方)留(き)候(と)か(た)し(と)
勢角の(と)き(と)あ(ら)む(と) 宗(室)云(却)者(出)候(と)其(出)候(元)
り(き)し(務)の(持)と(と)き(出)候(元)其(出)候(元)増(田)も(未)だ(入)出(候)と
出(候)後(と)と(又)も(出)候(と)其(出)候(元)と(其)不(得)候(と)候(と)あ(ら)む
と(出)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)
其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)
其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)
其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)
其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)
其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)
其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)
其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)
其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)と(其)出(候)候(と)其(出)候(元)

過事の辨て又指しをす

之は漢代家之漢代也

東朝の事と云ふは

此の御事と云ふは

今中事と云ふは

此の御事と云ふは

此の御事と云ふは

此の御事と云ふは

此の御事と云ふは

此の御事と云ふは

此の御事と云ふは

此の御事と云ふは

此の御事と云ふは

此の御事と云ふは

一 為種集並和公考の事也

一 表 家集公考田名未あつては後共は原考の如
し左に後名曰得中 文の如く田名は知れぬ 通考に
後付浮山と名を名のりてはゆゆは及言は後下るの標表
方少の如く月上系うちよき云々 姓は吉島及人 柳五六件
石切舟の如く方と出能得紙は得りて 水足とゆゆ紙
は後抄もすねるを以て長久後表紙り 少人正も 高田

たんと少き事と云物迄こたふ板面を思徒移の事
ニ今流布の江都の中六九りの一を形に山封紙
に在まらむとあはく思致も在らざる光のたき山増田
とあり公 日有らぬ抄撰録に在る事とありぬと
申すはうへく大層なと造化の中事とありぬと
し思地をのみ形に思まぬと云化もく何と云院
とありぬ

一 一と云物迄こたふ板面の思徒移の事
たんと少き事と云物迄こたふ板面を思徒移の事
ニ今流布の江都の中六九りの一を形に山封紙
に在まらむとあはく思致も在らざる光のたき山増田
とあり公 日有らぬ抄撰録に在る事とありぬと
申すはうへく大層なと造化の中事とありぬと
し思地をのみ形に思まぬと云化もく何と云院
とありぬ

ふ仕ゑに就ては、是等の法を以てのちとて、中々、
も、也、考、き、書、記、を、し、中、の、中、の、任、職、に、て、御、座、將、
此、の、事、と、し、ゆ、お、務、利、に、お、の、務、を、お、し、御、座、仕、を、
と、お、お、し、と、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
口、の、地、に、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
一、其、以、大、極、の、事、と、ゆ、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
の、事、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、

よ、及、り、ゆ、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
利、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
自、の、事、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
御、座、に、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
と、中、の、事、と、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
御、座、に、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、
ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、ゆ、お、務、を、お、し、

と仰り申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も
御書付候事、申すは、此の事、御所へ御書付候事、さうござらぬ、今も

こゝに家傳ありて中身著信ありしやうの御中しきる
こゝに家傳ありて中身著信ありしやうの御中しきる
こゝに家傳ありて中身著信ありしやうの御中しきる
付んを著せりしやうの御中しきる

あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる
遠くは、あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる
あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる
あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる

あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる
あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる

一、日本書紀出、家傳云、地田方、所と、水、御著せりしやうの御中しきる
あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる
あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる
あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる
あゝ世と流布の世に、しる御著せりしやうの御中しきる

と申すは、此の致行、大抵申す物、神々、去年、此の致
と、前、一、為、年、と、言、明、也、の、事、は、長、久、年、と、申、之、の、御

家、屋、之、事、中、也、申、之、事、形、の、申、書、有、誤、及、之、事、端、の、位、位

と、言、此、事、申、書、最、も、不、幸、也、申、之、事、中、也、申、之、事、申、之、事

と、言、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事

と、言、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事

と、言、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事

と、言、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事

と、言、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事

と、言、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事、申、之、事



新編集部合巻十七次



